

<p>防火標語</p> <p>お出かけは マスク戸締り 火の用心</p>		<p>発行所 公益財団法人長野県消防協会 (長野県庁西庁舎)</p> <p>〒380-8570 長野市大字南長野字幅下 692-2 TEL (026) 232-5319</p> <p>編集発行人 上 條 博文</p>
---	--	--

長野県消防協会 <http://naganoken-syouboukyoukai.com/>

令和4年度 長野県消防ポンプ操法・ラッパ吹奏大会結果

順位	ポンプ第1部	ポンプ第2部	ラッパ
優勝	小谷村	長野市	長野市
準優勝	安曇野市	野沢温泉村	木島平村
3位	松川町	豊丘村	朝日村
4位	中野市	安曇野市	木曾町
5位	信濃町	白馬村	小谷村
6位	—	上松町	飯田

個人賞

ポンプ第1部		ポンプ第2部	
番員	消防団名 氏名	番員	消防団名 氏名
指揮者	小谷村 山田 雅士	1	野沢温泉村 片塩 諒介
1番員	安曇野市 滝沢 大介	2	野沢温泉村 吉越 淳吾
2番員	安曇野市 萩原 茂裕	3	安曇野市 古畑 亮士
3番員	小谷村 細澤 泰範	4	長野市 酒井 玲
4番員	中野市 甘利 泰久	—	—

今回は、新型コロナウイルス感染症対策の一環で、運営方法を大幅に見直し、競技選手は入換え方式とし、開閉会式典、表彰式をなくし、参加地区協会には参加者の縮減にも協力いただきました。(表「運営内容」参照)

参加消防団、選手は、第1部ポンプ車操法5団40名、第2部小型ポンプ操法6団42名、ラッパ吹奏6団111名、役員、選手、運営係者合わせて約550名となりました。このうち、当番協会である松本消防協会からは、大会運営に107名が参加。総務、選手誘導、駐車場など各係で役割を担い、競技の円滑な運営に尽力いただきました。

新型コロナウイルス感染症の感染警戒レベルに応じて開催の可否を判断したため、開催決定が大会の1カ月前という厳しい日程でした。準備、運営にご協力をいただいた関係者全ての皆様に御礼申し上げます。

長野県と公益財団法人長野県消防協会の共催による県大会を、7月10日(日)松本市の消防団トレーニングセンター(防災物資ターミナル)で開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大による中止を経て、今回3年ぶりの開催となりました。4月以降、訓練の制約や市町村・地区大会の中止により参加できない地区協会も多く、参加は6地区協会となりました。

第31回長野県消防ポンプ吹奏大会
3年ぶりに開催
第64回長野県消防ポンプ操法大会

今回は、新型コロナウイルス感染症対策の一環で、運営方法を大幅に見直し、競技選手は入換え方式とし、開閉会式典、表彰式をなくし、参加地区協会には参加者の縮減にも協力いただきました。(表「運営内容」参照)

参加消防団、選手は、第1部ポンプ車操法5団40名、第2部小型ポンプ操法6団42名、ラッパ吹奏6団111名、役員、選手、運営係者合わせて約550名と



第1部小谷村消防団



第2部長野市消防団



ラッパ吹奏長野市消防団



開始式の県協会役員、審査員、松本協会各団の皆さん

令和4年度大会の主な運営内容

開会式	開会式典は実施せず運営本部のみで開始式を実施。
競技形式	選手及び選手関係者は一堂に会せず、待機エリア、受付・点検エリア、競技エリアを順に移動してもらった「入換え方式」で実施。
来賓	招待しなかった。
参加者	各チーム関係者の参加は20人以内として縮減に協力依頼。
報道関係者	公開しなかった。
観客、応援者	遠慮いただいた。
表彰式	当日は実施せず、別の機会に行うこととした。成績発表は当日県協会ホームページで公表。
閉会式	閉会式典は実施せず運営本部のみで終了式を実施。
審査員	操法審査において番員審査は1部2部とも掛け持ちで、県消防学校教官が各1名で担当。消防本部(局)については、参加協会を管轄する消防本部(局)のみに審査員派遣を依頼。
新型コロナウイルス感染症対策	三密回避のため上記の対策を講じたほか、県が定める「イベント開催時のチェックリスト」に基づいて対策を講じた。また、全参加者に当日朝健康チェックシート提出を依頼。

優勝チーム寄稿

念願の県大会初出場
まさかの初制覇!

小谷村消防団第三分団主将

柳澤 孝彰

まず初めに、今回県大会を3年ぶりに開催していただいた長野県消防協会会長はじめ関係各位の皆様、新方式やルール改正など様々な障害がある中で大変なご尽力をいただいた大会を開催していただいた事、誠にありがとうございます。

実は我々小谷村消防団ポンプ車チームは、県大会へ今まで出場をした事がありませんでした。(小型ポンプチームは何度か出場しています)

そんな中、県大会初出場、初優勝となかなか経験ができないことをさせていただき、少し感情が追いついておりません。ただ操法の選手をやった者なら必ず目指す県大会出場、そして優勝その経験をさせていただいた選手のみんなには本当に感謝しています。時には厳しくして落ち込ませたこともあるでしょう、文句もあつたと思います。それでも主将やコーチを信じて文句も言わずアドバイスを聞き、ただひたすらに練習をしていた姿を見たとき、このチームの主将になれて良かったとしみじみ感

じながら練習を見ていました。今回村の大会・地区大会・県大会と一貫して伝えてきたのは、自分たちのルーティンを崩さない事・自分たちのペースで操法に入ることでした。なかなかあの緊張感の中それを実行するのは並大抵のことではないと思うのですが、選手たちはやってくれました。他にも勝因はあるとは思いますが、でもそこが大きかったのかなと思います。

選手をずっと支え続けてくださいました、県大会優勝!と聞いた時三分団皆で泣き笑いながら讀みあつた事、あの時のシーンは多分一生忘れないと思います。書きたいことはいっぱいあつて、感謝したい人はもつといっぱい書いて書ききれません。

今回の結果を自信にし、しっかりと来年度以降も育成に力を入れ、県大会常連と言われる分団となつていけるように頑張つていきたいと思ひます。もちろん日々の消防団活動も全力で頑張ります。『俺たちの村は俺たちで守る』選手みんなありがとう!そしてお疲れ様。



小谷村魂!! やればできる!!

勝ちて和す

長野市消防団小田切分団長

曾根原正昭

私たちの暮らす小田切地区は、長野駅から車で30分の標高800m程の長野市中西部にあります。北アルプスや槍ヶ岳を遠くに望めるスポットがあり、川中島平も一望できます。中山間地を受け持つ小田切分団は、山林火災の予防や大雨による土砂災害への警戒、地区自主防災訓練への参加等が活動の中心になります。人口減少や高齢化の進行が消防団員の減少と高齢化へも影響しています。平均年齢51歳の当分団が所属する長野市消防団は74分団からなり、6方面隊12ブロックを構成し、小田



選手、サポーター、家族の皆さんに感謝

切分団は浅川、安茂里、芋井、七二会地区の5分団で西部ブロックとして活動しています。

ポンプ操法大会への出場も5分団が交代で出場しており、操法の訓練は5年に一度となります。コロナ禍で大会の中止がありました。今回の出場は6年ぶりとなりました。大会までの早朝訓練には西部ブロックの仲間が激励に足を運んでくれます。また、中央消防署安茂里分署の方々からご指導をいただいたことは、選手の力へ大きくつながりました。「長野市大会3位以上で長野協会大会進出」を目標に訓練を開始しました。真摯に訓練に取り組む選手の姿はサポートする団員へも影響し、分団が一丸となり長野市大会2位、長野協会大会1位で初めて県大会へ出場する事ができました。

大会を振り返って

長野市消防団音楽隊長

清水 大輔

これまでご支援いただいた皆様と、この訓練に参加してくれた選手、サポートの団員の皆さん、それを支えていただいたご家族の皆様にご心より感謝いたします。

私が音楽隊の隊長になって3年目の今年、ラッパ吹奏大会が3年ぶりに開催されることになりました。久しぶりの大会であり、私が隊長になって初めての大会となります。そして今年の大会は例年とは違い、とても忙しい大会になりました。

長野市大会が行われると決まったのは、大会予定日の1カ月前でした。多くの人が今年も中止と思っていた矢先、この急な展開に戸惑いながら各チーム週3日までと制限がかかった中で練習をしました。長野市のラッ



パ隊員はそれぞれの分団に所属し、主にブロック単位でチーム編成をして大会に臨みます。私も激励のため各チームを回りました。

長野市大会も無事終わり、これから長野協会大会、長野県大会へと向かっていきます。

長野協会は長野市、信濃町、飯綱町、小川村の消防団が集まり、我々ラップ隊は精鋭部隊を編成して臨みます。しかし、協会大会までは1週間、そのあとに長野県大会も1週間後と、とても忙しいスケジュールでした。大会に向けての準備も慌ただしく、隊員たちの気持ちの切り替えもうまくいっていません。練習の回数を感じました。それでも練習の回数を重ねることに、そして、県大会が近づくと、優勝への思いも高まりチームも一つにまとまってきました。練習期間が短かったことが逆に良かったの

かもしれない。

そして、県大会当日です。なんと優勝することができました。前回の成績は2位なので、今年こそは優勝の思いを抱きながらの大会でした。天気も良く絶好の大会日和であったこと、地元との大会と同じ入れ替え制で行われたため、とても落ち着いて演奏できたことがよかったのだと思います。

忙し過ぎた大会期間でしたが、この経験が隊員たちの自信につながり、今後の活動をよりよくしていくと思います。優勝という素晴らしい結果をもたらした隊員たちを誇りに思うとともに感謝の思いでいっぱいです。本当にありがとうございます。そしてお疲れさまでした。



長野県消防関係 殉職者慰霊祭を実施

県消防長会との共催による県消防関係殉職者慰霊祭を9月2日(金)、長野市花岡平で行いました。来賓として関副知事、前沢県危機管理部長、柳沢県消防課長、村上県消防学校長、太田消防防災航空センター所長が、主催者として佐伯県消防長会長の皆様、当協

女性消防団員 活性化会議開催



今年度第1回の女性消防団員活性化会議を9月10日(土)長野県庁災害対策本部室で行いました。会議は、会場出席とオンライン参加のハイブリッド方式で実施。上條会長と福澤副会長は会場に出席しました。会議は代表の選出、二月に行う女性消防団員活性化大会の内容などを協議しました。



今年度のメンバーの皆様は次のとおりです。

協会(所属消防団) 氏名(敬称略)

南佐久(佐久穂町) 高見澤礼奈

北佐久(立科町) 遠山 実月

上 小(上田市) ○鷲巢 志保

諏 訪(諏訪市) 武井 里菜

上伊那(伊那市) 尾関 恵

飯 伊(喬木村) 伊藤 友美

木 曾(南木曾町) 小林和可奈

松 本(安曇野市) 飯沼千賀子

大 北(大町市) ○奥村 照美

埴 科(坂城町) 鈴木 悠木

須 高(須坂市) 徳武 洋子

長 野(長野市) 大越えみ子

北 信(飯山市) 木鋪 美香

◎会長、○副会長

県消防学校初任科 査閲・卒業式

9月17日(土)今年度消防本部(局)に就職し、4月に初任科に入校した学生の実科査閲と卒業式が行われました。卒業生は、男性67名、女性8名の計75名。理論や規律、実習、訓練に加え、共同生活でチームワークを育んできました。

上條博文会長は祝辞で、「火災、災害が多発していることから、地域の期待は大きくなっている。学んだ知識、技術を發揮し、郷土の消防防災のために活躍を願っています。」と激励しました。



第41回全国消防殉職者 慰霊祭行われる

9月15日(木)、東京都で日本消防協会主催による第41回全国消防殉職者慰霊祭が行われました。岸田文雄内閣総理大臣、寺田稔総務大臣、遺族代表が追悼の言葉を述べられ、長野県からは上條博文会長が代表で参列し、献花を行いました。

日本消防協会の秋本敏文会長は、「関係者一同、これからも力を合わせて事故防止に最善の努力を尽くします。これは職に殉じた御霊に対する私どもの責務であると存じます」とあいさつ。参加者一同が殉職された方々に対し、深い敬意と感謝を捧げ、安らかなご冥福をお祈りしました。



令和4年防災功労者 内閣総理大臣表彰

〔災害現場での顕著な防災活動〕
諏訪市消防団(小池敏彦団長)

不易流行 — 不変の中の変化 —



上田市消防団 団長 福澤 賢治

上田市の紹介

長野県東部に位置する上田市は、人口約152,000人の県内では3番目の規模の都市であり、戦国時代に真田氏が築いた上田城を中心に形成された城下町です。また、昼夜、夏の気温差が大きい典型的な内陸性気候であり、特に晴天率が高く、全国でも有数の少雨乾燥地帯のため、ため池等が多く点在しております。

千曲川が市域の中央を東西に横断するように流れ、北に菅平高原、南に美ヶ原高原を望む、自然豊かな街です。また上信越自動車道や北陸新幹線が東西に並行して走り、首都圏と北陸地方を結ぶ道程で松本地方、諏訪地方への交通の結節点となっており、有料道路無料化に



台風による倒木災害に備えたチェーンソー運用訓練

に伴い、更に交流しやすくなりました。

日本百名城に選ばれている上田城は桜の名所とされて



休日の教習所をお借りし、団歴の浅い団員対象の車両運転訓練

田平には数多くの神社仏閣が集まり「信州の鎌倉」と称されています。市内各所には映画やドラマ、CM等のロケ地となる風情豊かな景色が多く、深い歴史と美しい自然、近現代が融合した大変暮らしやすい街です。

上田市消防団の紹介

平成18年3月に上田市、丸子町、真田町及び武石村の4市町村が合併し、同年4月「新上田市消防団」が結成されました。

現在は、1本部、8方面隊、29個分団で構成され、令和4年に条例定員が1,850名に改正され、新体制として動き始めたばかりです。

各分団にはラップ隊・救護隊・バイク隊・広報部に所属する団員がおり、一年を通じて分団の枠を越えた活動をしています。

音楽隊は団本部所属としており、音楽を通じて市民の皆様への予防消防の啓発活動をしています。団員の平均年齢は37・9歳。団員の居住地は市街地、郊外、山間地、農村地等様々な環境にあり、社会や家庭で中心的な役割を担う年齢層が大半を占め、同時にサラリーマンの占める割合も高いことから、平日昼間の地域防災力の低下は例外なく全地域の課題となっております。

上田市消防団の活動

私たちは消防団員としての自覚のため、代々「良識ある市民たれ」◆防火防災のエキスパートたれ◆地域のリーダーたれ◆郷土愛を涵養しよう◆自負と誇りを持つと「という5つのスローガンを掲げ、活動に取り組んでおります。

毎年、4月4日に辞令交付式を執り行い、分団総会や各種訓練や大会、防災イベントや出初式等を実施しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、消防団の活動が制限されてしまう昨今、各分団は訓練を工



消防署職員指導による少人数で行う規律訓練

夫し、少人数で分散して実施するため、規律訓練等における指導者育成」を行いました。また、図上訓練や機関運用訓練、水防訓練等における「基本的な訓練」を計画し、年間を通して団員育成に取り組んでおります。管轄消防署との連携強化については、火災想定訓練を計画し、実践に則した訓練を行うことで、分団に不足している技術や知識を補うきっかけとなっており、必然的に分団力の資質向上と、団員のスキルアップに繋がっております。

分団の管轄地域での活動に目を向けると、自主防災組織との繋がりが非常に重要になっており、昨年度からは自治会連合会役員と消防団幹部の意見交換会を始めました。ここで地域の皆様に分団の実情や活躍を知っていただけることで、今後の地域防災の担い手となる団員確保に向けた取組みに繋がっております。いざという時に、自治会や行政、そして各分団が役割をしっかりと果たすためには、備えとして何が必要なのかを考え、議論し、協働体制の強化を目指す取組みを今後も継続していききたいと考えております。

おわりに

私が入団してから、消防団を取り巻く環境は大きく変わってきました。今後、少子高齢化の



土のう積み訓練を行い多発する水害に備える

進展に伴い、消防団員の確保・維持がさらに困難になることが予想されます。「自らの地域は自ら守る」という精神で消防団活動を継続するためには、新入団員や団歴の浅い若い団員に、未永く誇りを持つて活動してもらうことが重要です。そのためには、従前の訓練や活動を当たり前とせず、団員個々に目を向けた細やかな訓練を計画し、多くの団員が「経験する」ことで自信に繋げ、地域の重要な戦力として活動できる消防団員に育てることが我々消防団幹部の使命だと考えます。「不易流行」とは、いつまでも変わらないものの中に新しい変化を取り入れることを指す言葉です。本来の消防団の存在意義を大切にしつつ、時代に即した活動に形を変え挑戦し続ける、「不易流行」の上田市消防団でありたいと考えています。今後とも変わることはない「地域に根差した魅力ある消防団」であるために、これからも上田市消防団は活動してまいります。